四日市市埋蔵文化財発掘調査報告書 33

茂福城跡 4

2004（平成16）年11月
四日市市教育委員会

例　言

1　本書は、三重県四日市市茂福町地内に所在する「茂福城跡（もちぶくじょうあと）」の発掘調査（第４次）報告書である。

2　発掘調査は、宅地造成事業に伴う事前調査として、四日市市教育委員会文化課が実施した。

3　調査にかかる経費は、「宅地造成に伴う茂福城跡・里之内遺跡の取扱いに関する協定書」に基づき、櫻井浩氏が全額負担された。

4　調査は、現地調査を平成16年８月16日から同年８月19日まで、整理作業を同年11月19日まで実施した。

5　調査面積は、75㎡である。

6　調査及び整理の体制は、以下のとおりである。

・調査主体　四日市市教育委員会

・調査担当　四日市市教育委員会文化課

埋蔵文化財係　赤松一秀・服部芳人

7　本書の執筆は赤松、服部両名で行い、編集は赤松が行った。

8　現地調査にあたっては、下記の方々にご協力を頂いた。（敬称略）。

早川哲彦、有限会社カナック、株式会社ブレイナー、

9　本書の方位は、真北を用いた。なお、磁北方位は、西偏６度40分（平成７年、国土地理院）である。

10　出土遺物および調査記録は、四日市市教育委員会において保管・管理している。

目　次

Ⅰ　前言・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

1　調査に至る経緯・・・・・・・・・・・・・・・1

Ⅱ　調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

1　はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

2　遺構・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

3　遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

Ⅲ　まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5

Ⅰ　前　言

1　調査に至る経緯

平成16年５月に市内茂福町地内の宅地造成事業に係る遺跡所在の確認があった。事業計画地は周知の中世城跡である茂福城跡（市遺跡番号253）に含まれており、その保護について事業者と協議を行った。その結果、平成16年７月18日付で、事業者と市教育委員会の間で協定書、協議書を締結し、７月21日に試掘調査を実施した。試掘坑２ヶ所（約24㎡）を造成地内の道路計画内に設定し調査を行った結果、堀の埋土と思われる土層及び中世の遺物を確認した。その為、再度事業者と協議を行ったところ、平成16年８月９日付けで先の協定書に基づく発掘調査の協議書を事業者と市教育委員会が締結し、現地調査を行うこととした。なお、今回の調査は第４次調査として実施した[1]。

［文化財保護法等にかかる諸手続き］

文化財保護法（以下「法」）等にかかる諸手続きは、以下により行っている。

・法第57条の２第1項（事業者届出、県教育長宛）

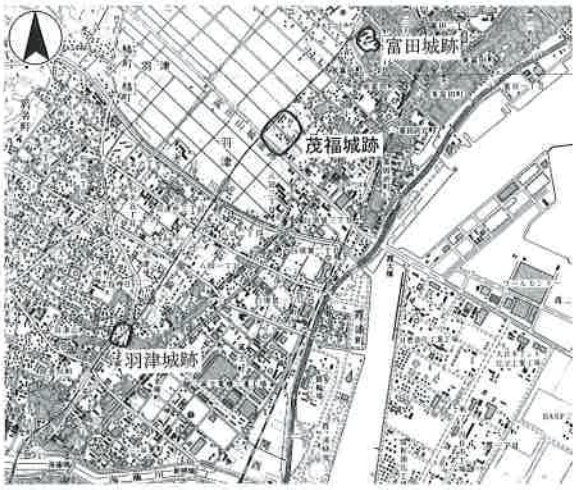
平成16年７月６日付、文化第187-2号

・法第58条の２第１項（市教育長報告、県教育長宛）

平成16年８月19日付、文化第242号

・遺失物にかかる埋蔵文化財の発見届（市教育長届出、四日市北警察署長宛）

平成16年８月26日付、文化第246号



第１図　周辺遺跡位置図（1：50,000）

（国土地理院発行「四日市東部」「桑名」1：25,000より）

Ⅱ　調査の概要

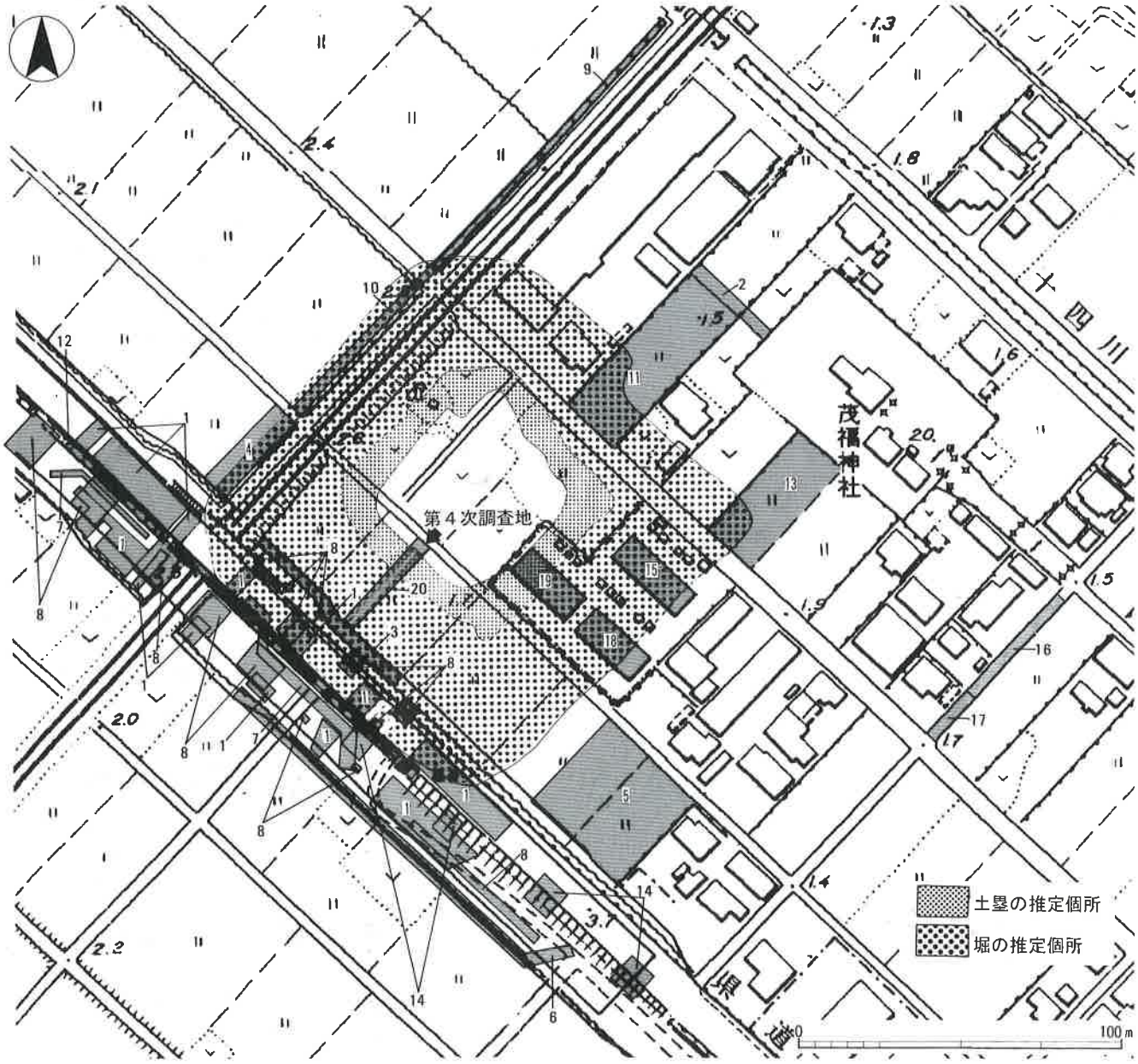
1　はじめに

茂福城跡は、朝明川と海蔵川にはさまれた、標高約２m足らずの低地に位置する中世城跡である（第１図）。主郭の一部が四日市市の史跡指定を受け、土壇として残存している。また、明治時代に作成された三重郡茂福村字里之内地籍図によって、概ね城跡の規模などの想定も可能となっている。

当城跡はこれまでに、昭和52年には四日市市都市計画道路富田山城線道路改良事業、平成11年には羽津茂福３号基幹水路築造工事、平成10年～14年にかけては富田山城線国補街路整備事業に伴って、３次にわたり発掘調査が行われている。また、これらの発掘調査のほか、当城跡の周辺では民間の宅地造成や建物解体、上下水道管埋設などに伴って、10数ヶ所の試掘調査、立会調査も行われており、土塁や堀跡などの詳細も徐々に判明しつつある（第２図、第１表）。

2　遺構

今回の調査区は、幅2.5 m、長さ30 mのトレンチを北東方向から南西方向に設定し、調査を行った（第２図）。この調査区の方向は南西方向の土塁想定



第２図　調査区位置図（1:2,000）

から、その回りに巡らされた可能性のある堀跡を横断する形であり、土層断面の観察により詳細が解明できるものと思われた。

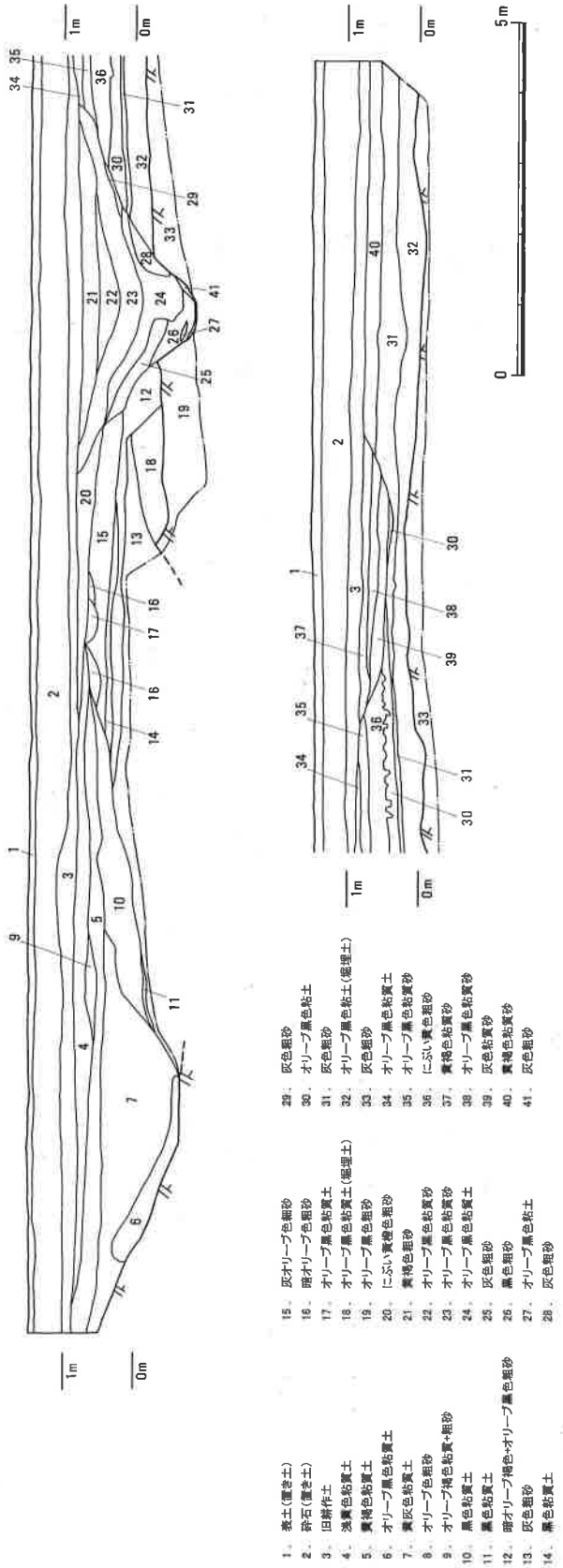
調査の結果、現地表下約 0.6 m（標高約 0.8 m）までは、駐車場表土・砕石・旧耕作土が堆積し、その下層には、にぶい黄橙色粗砂層（20）またはにぶい黄色粗砂層（36）が全体的に堆積する（第３図）②。この粗砂層は、おそらく自然の氾濫に伴うものと思われる。それより下層にオリーブ黒色粘質土層（18）（標高 -0.2 m前後）またはオリーブ黒色粘土層（32）（標高０m前後）が見られた。オリーブ黒色粘質土層からは、土師器片や陶器片が出土している。共に堀の埋土と思われる。これらのオリーブ黒色粘（質）土層を切る形で調査区の北寄り、中央部、南寄りの３箇所で落ち込みを確認した。いずれも幅約４～５m、深さは北寄り・中央部が約 1.2 ～ 1.5 m、南寄りが約 0.5 mである。断面観察の為、落ち込みの性格までは判断できなかった。

土層断面、中央部落ち込み付近（北西から）

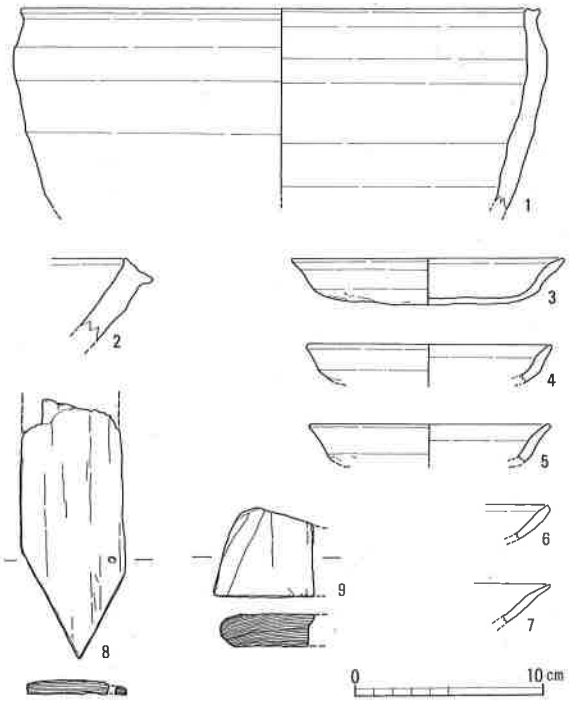
調査区全景（北東から）

No.	調査種別	調査原因名	調査期間	調査内容
1	発掘調査	富田山城線道路	昭和 52 年 10 月 11 日～ 11 月 26 日	堀の一部検出。第１次調査。
2	立会調査	U 字溝布設工	平成９年１月 13 日～１月 14 日	遺構・遺物なし。
3	試掘調査	下水管埋設	平成９年３月 18 日	堀の中・遺物なし。
4	試掘調査	下水管埋設	平成９年４月 30 日	粘土層確認・土師器、陶器出土。
5	試掘調査	共同住宅建設	平成 10 年４月 15 日	自然流路。
6	立会調査	ガス管移設	平成 10 年８月 10 日	遺構・遺物なし。
7	立会調査	上水道 500 粍配水本管移設工事	平成 10 年 12 月３日～ 12 月 17 日	堀の埋土（暗灰色粘土）確認・土師器細片出土。
8	立会調査	富田山城線国補街路事業	平成 11 年３月３日～３月 16 日	二重の堀の想定。
9	試掘調査	下水道建設	平成 11 年４月８日～４月９日	堀の埋土確認・土師器羽釜片出土。
10	発掘調査	下水道建設	平成 11 年 11 月１日～ 11 月 11 日	堀の肩検出・木製品、土師器羽釜出土。第２次調査。
11	試掘調査	宅地造成計画	平成 11 年 11 月 18 日	堀の深さまでの掘削で遺構なし・土師器皿、黄瀬戸皿、陶器甕出土。
12	試掘調査	平成 11 年度国補街路事業	平成 12 年１月 10 日～１月 11 日	堀確認。
13	試掘調査	個人住宅・住宅造成	平成 12 年 10 月４日	堀の東隅を確認・すり鉢出土。
14	発掘調査	平成 13 年度富田山城線国補街路事業	平成 13 年４月 10 日～ 11 日	堀の一端を検出。第３次調査。
15	立会調査	建物解体・基礎杭抜取工事	平成 14 年 12 月２日～ 12 月５日	堀の埋土（暗灰色粘質土）確認。
16	立会調査	市道茂福 11 号線側溝改良工事	平成 15 年１月 21 日	遺構・遺物なし。
17	立会調査	市道茂福 11 号線側溝工事	平成 15 年 10 月２日	遺構・遺物なし。
18	立会調査	建物解体・基礎杭抜取工事	平成 15 年 12 月２日～５日	堀の埋土確認。
19	立会調査	建物解体・基礎杭抜取工事	平成 16 年８月 12 日・17 日～ 19 日・23 日	堀の埋土（黒灰色粘質土）確認。
20	発掘調査	宅地造成事業	平成 16 年８月 16 日～ 19 日	堀の埋土確認・陶器、土師器、木製品、骨出土。第４次調査。

第１表　茂福城跡の調査履歴表



第３図　南東壁土層断面図（１：100）



第４図　出土遺物実測図（Ｓ＝1/4）

３　遺物

試掘調査及び本調査において、中世の陶器、土師器、木製品、骨等が出土している。以下に出土遺物の概略を記す。

陶器（第４図１・２）

１は常滑産の無頸壺で、口径 27.4cm で 15 世紀末～ 16 世紀前半のものと思われる。２は常滑産の片口鉢の口縁部である。細片の為、法量は不明であるが 16 世紀前半のものと思われる。

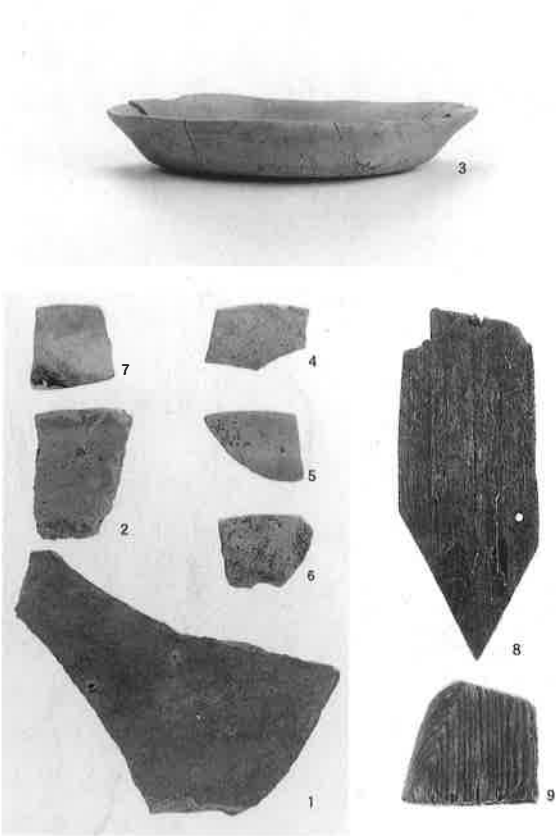
土師器（第４図３～７）

３～７は、土師器の皿である。３は、試掘調査時に、地山面直上で出土したものである。口径 14.4cm、器高 2.5cm で、体部から口縁部にかけてやや強いヨコナデが認められる。16 世紀代のものと思われる。なお、４～７は、調査中に調査地の北側の畑で表採したもので、今回あわせて報告する。４～６は中・北勢系で、７は京都系のものと思われる。

木製品（第４図８・９）

８は板状に加工された木製品で、長さは 13.0cm 以上、幅は 5.4cm、厚さは 0.7cm である。長辺の片方は尖っており、直径 4mm の孔が一箇所に穿かれている。９は板状に加工された木製品で、残存する長さは 4.6cm、幅は 5.0cm 以上、厚さは 1.7cm である。

四面のうち一面が斜めにカットされ側面が丸みをもって加工されている。その対面する一面は、破損している。残りの二面のうち、一面（図面上で下方）は側面が平らに加工されているが、他の一面（図面上で上方）は不明である。８は卒塔婆の先、９は下駄の一部の可能性もあるが、破片の為不明である。



遺物写真

Ⅲ　まとめ

今回の調査地は、土塁や堀の想定される場所であり、これらの遺構の検出に期待が持たれた。

調査で確認できた事は次の二つである。まず、調査区の中央部分で確認したオリーブ黒色粘（質）土層であるが、周辺の調査で確認している堀の埋土と酷似しており、堀の埋土で間違いないであろう。次に、３箇所で確認した落ち込みであるが、この堀の埋土を切っており、また、旧耕作土の直下でもあることから、堀や土塁に直接伴うものではないと考えられる。

今回の調査成果としては、土塁や堀の立ち上がり部分の痕跡を確認することはできなかったが、この調査地が掘の一部であることがわかった。

註

①・第１次調査 ― 谷川博史・北野保『茂福城跡』四日市市茂福城跡調査会、1978

・第２次調査 ― 加藤淳次『茂福城跡２』四日市市教育委員会、2000

・第３次調査 ― 萩原義彦『茂福城跡・里ノ内遺跡Ⅲ発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター、2004

②　本書で使用した土層および遺物の色調については、『新版標準土色帖』24版、小山正忠・竹原秀雄、日本色研事業株式会社、2002を使用した。また、本文中の土色の（ ）内の番号は第３図の番号と一致する。

報告書抄録

ふりがな	もちぶくじょうあと
書名	茂福城跡　4
シリーズ名	四日市市埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ番号	33
編著者名	赤松一秀・服部芳人
編集機関	四日市市教育委員会
所在地	〒510-8601　三重県四日市市諏訪町１番５号　TEL 0593-54-8240
発行年月日	2004（平成16）年11月19日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積（㎡）	調査原因
茂福城跡（もちぶくじょうあと）	四日市市茂福町（よっかいちしもちぶくちょう）	24202	253	34° 59′ 44″	136° 38′ 45″	20040816 ～ 20040819	75㎡	宅地造成工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
茂福城跡	城館跡	室町時代	堀	陶器、土師器、木製品、骨	

編集・発行／四日市市教育委員会　　印刷／フコク印刷工業有限会社

再生紙を使用しています。